様式1－3(統一栽培暦様式)

もっと安心農産物 キャベツ(春どり) 栽培暦（令和８年度）

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥2トン／10aを施用するか、エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 **化学肥料窒素成分使用量14kg／10a以下**

基肥は①，②、③のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①マイルドユーキ030号(10-13-10 有機態窒素 5.3)	120kg／10a以下
	②エコレット866(8－6－6 有機態窒素 4.1)	160kg／10a以下
	③ちばみどり有機888(8－8－8 有機態窒素 1.2)	160kg／10a以下
	苦土石灰	60kg／10a
追肥	マイルドユーキ030号(10-13-10 有機態窒素 5.3)	40kg／10a

3. 防除 **化学合成農薬 ８成分回数まで（苗購入の場合６成分回数まで）**

(Zボルドー・カスミンボルドー・スピノエース顆粒水和剤・エスマルクDFは化学合成農薬に含めない)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施等）
10月上旬	播種	ネキリムシ	①ネビジン粉剤又はネビリュウ	20～30 kg/10 a (播種又は定植前)	2回	根こぶ病	害虫の発生量を減らすため圃場周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷紗でトンネル被覆をする
中旬			②カルホス微粒剤F	6kg／10a (播種時又は植付時)	1回	ネキリムシ類	
下旬							
11月上旬		ヨトウムシ	エスマルクDF	1000～2000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	コナガ	フェロモントラップへの誘殺量を参考に防除時期を決定する
				1000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ	
中旬		←― アブラムシ・コナガ ―→					
下旬							
12月上旬			③フォース粒剤	4kg/10a (定植時)	1回	ネキリムシ類	黒腐病の発生が多い場合は、カスミンボルドー1000 倍（収穫 7 日前・4回)を散布する
中旬	定植		④アファーム乳剤	1000～2000 倍 (収穫前日)	3回	コナガ ヨトウムシ	
下旬			Zボルドー	500 倍	—	黒腐病	
1月上旬							アブラムシ類発生の場合は、⑦ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤を 2000～4000 倍（収穫 7 日前・5回）散布する。 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ発生の場合は⑧コルト顆粒水和剤を 3000 倍（収穫前日・3回)散布する
中旬	結球初期						
下旬							
2月上旬	追肥						コナガの発生が多い場合は、⑨フェニックス顆粒水和剤 2000～4000 倍（収穫前日・3回)⑩プレオフロアブル 1000 倍（収穫 7 日前・2回)⑪テツフロアブル 2000 倍（収穫前日・2回)⑫チハチ乳剤 1000～2000 倍（収穫 14 日前・2回） スピノエース顆粒水和剤 2500～5000 倍（収穫 3 日前・3回)等を散布する
中旬							
下旬			⑤トルネードエースDF	1000～2000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ	
5月 ～	収穫		⑥グレーシア乳剤	2000～3000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ ウワバ類 アオムシ	

☆みんなで守ろう生産基準